

## 【りんご】

『中身は出来ているのに色が悪くて収穫できない…』、『色が上がらないと納得して収穫できない…』との声があがっています。実際、去年のつがるやふじでもその傾向は顕著でした。そこで、今回は年々進む温暖化に負けない2品種をおすすめします！

### 品種特性メモ

品種名	交配・来歴等	収穫時期	貯蔵性	特性
シナノリップ	千秋×シナノレッド	8月末	常温で約10日	果形は横長 収穫前落果小！
百年ふじ	らくらくふじ枝変わり	11月上旬	常温で約3カ月	濃赤色で縞が不明瞭 11月初旬収穫可能！

#### ① シナノリップ ⇒ 導入例：露地ぶどう収穫前の品種として選択！

『真夏でも真っ赤に仕上がる！期待の早生種！』

中野市で8月末に成熟期を迎えるシナノリップ。真夏の高温下でも容易に紫紅色に仕上がるのが最大の特徴です！収穫はつがると同時期で、糖度も高く甘みを強く感じる食味です。試食会での評価は『いいね』（高評価）です。

10年前と比べて、つがる等のりんご早生種は4分の1まで少なくなりました。しかし、消費者から真夏にりんごを食べたいとの声は消えることはありません。真夏のシナノリップ！ぜひ植えてみませんか？

苗木価格：2,160本/1本（1年生）

#### ② 百年ふじ ⇒ 導入例：昔ながらのふじから最新トレンドの百年ふじへ切り替え！

『色上がりが断然早い！ふじの核弾頭！』

越の荻原安治さんがらくらくふじの中から育成した超優良系統。苗木販売元の（株）天香園の百周年を記念して、百年ふじと名付けられました。

数多くのふじ系統のなかでも色上がりが格段に早く、10月末には濃赤色に仕上がり、糖度も上がりや蜜入りも早いため、11月初旬にはまとまった量の収穫ができることが最大の特徴です！昨年秋の日照不足により、ふじ全体に着色遅れが顕著な中、百年ふじの色上がりはひと際早く、園地の中でも目を引く存在でした！5年前から生産振興を始め、現在では市内各地で百年ふじが栽培され、生産者側からも『非常にいいね』（高評価）を得ています。

ふじの系統はたくさんあって、どれを植えていいかわからない…悩みが長年続きましたが、百年ふじの登場でこの悩みは一気に解消できそうです。中野市で植えるなら、迷わず百年ふじでしょう！

苗木価格：2,160本/1本（1年生）

## 果樹おすすめ品種導入例

- ① つがるを栽培しているが、色が悪過ぎて、8月の収穫は無理。9月に入れば露地のナガノパープルの収穫もあるし…

↓

つがるの色上がりは、一昔の2週間遅れ。その反面、果肉軟化（ボケ）は年々早まっています。しかも樹が老木化しています。この場合は、高温下でも容易に着色するシンノリップへの更新が最適です。一刻も早めの更新を！

- ② 現在、ももやプラムは作っていない。露地ぶどうの収穫前（9月）に何か手がかからず作りたい。できればまとめて収穫したい。

↓

この場合は、着色が良く、比較的手がかからないりんご「シンノリップ」がおすすめです！収穫ポイントは地色（がくあ部）が黄色になる頃がベストです。しかも、つがるのように極端にボケることもありません。

- ③ 昔ながらのふじ（通称普通ふじ）を作っているが、色上がりがまるで遅い…できれば、11月の早い時期に収穫してしまいたい。

↓

この場合は、数あるふじの系統のなかでも色上がりが断然早く、中身のついてくる「百年ふじ」への更新がベストです。貯蔵性もその他のふじと変わりません。従来優良系をされてきた、らくらくふじの進化した系統で、しかも地元育成系統。迷わず百年ふじでしょう！

- ④ 11月に収穫できる、ふじの系統でリレー収穫したい。どのような形にすることがベストか？

↓

現在、JAでおすすめしている、ふじ優良系統は、百年ふじ・らくらくふじ・長ふ12です。3系統それぞれ、熟期が違いますし、外観（仕上がり）も違います。もし、系統収穫リレーをするとすると、百年ふじ（11月上旬）⇒らくらくふじ（11月中旬）⇒長ふ12（11月下旬）がモデルケースとなります。百年ふじは、色上がりが一番早く、中身もついてくるため、系統リレーのトップバッターとしては最適です！